メディアの中の葬送　―葬儀をめぐる報道の変遷について（第１年次報告）

大道　晴香

１．問題の所在

本研究は、マスメディアによって形成される大衆文化の領域において、葬儀という儀礼がいかに表象されてきたのかを通時的に明らかにすることを目的とするものである。著名人であっても、近年は個人葬ないし家族葬、密葬という形式で葬儀をプライベートなセレモニーとして実施するケースが目立つ。この傾向がコロナ禍によってますます顕著になったであろうことは、想像に難くない。葬儀の小規模化・個人化というトレンドの変化と共に、親密な間柄以外の他者の葬儀に触れる機会は限られたものとなりつつある昨今だが、振り返ってみれば“少し前”まで、我々は他者の葬儀を目にする機会がわりに多かったように思われる。何を想定しているかと言えば、それはマスコミによる著名人の葬儀の報道である。

現在でも、確かに事件や事故に関連して葬儀会場の外から中継を行うケースは見られるものの、プライバシー保護やコンプライアンス意識の浸透から、大々的な報道は批判の対象にもなるため差し控えられる傾向にある。だが、“少し前”はそうではなかった。例えば、歌手・美空ひばりの葬儀が「本葬儀完全生中継」と称して４時間の特別番組を編成して生中継されたように、著名人の葬儀は長らくマスコミにとって格好のネタとなってきたのであり、その様子がワイドショーなどを通じて、全国のお茶の間に広く提供されていた時代が確かに存在していた。つまり、葬儀に大衆的な消費価値が認められてきたのであって、ここには「見る対象」という葬儀の特質が表れていると考えられる。何も著名人の葬儀に限った話ではない。遺された生者の記憶やイメージの投影に基づき、故人を表象する装置として機能し得る点に鑑みれば、程度の差こそあれ、葬儀は「見る対象」の性格を有していることになろう。一方で、主催側に立脚するならば、これは「見せる」という特質の存在を示唆しているとも捉えられる。社葬や国葬を始め、大規模かつ公的な色の濃い時代の葬儀においては、この「見せる」の側面が強く意識されたに違いない。著名人の葬儀に対する消費価値は、こうした葬儀に内在する不在の故人を表象する機能、換言すれば、故人の人間像を生者の記憶を基に再構築して表現する、メディア的機能の延長線上に発生してきたものだと捉えられる。

このように、我々の社会では、ある時期までマスメディアの報道が他者の葬儀に触れる回路として一定の役割を果たしてきた。インターネット普及前の情報環境下において、マスメディアが社会に対して持ちえた力の大きさについては、イタコと恐山を扱った論者の研究成果を含め、メディアと社会現象を紐づけた先行研究が既に明らかにしているところである。したがって、マスメディアが映し出す葬儀の在り様は、受容する大衆の側に多少なりとも影響力を持つものとして評価することができよう。しかも、著名人の葬儀となれば、そこには模範の意味合いも指摘される。遺影や祭壇といった設えを始め、儀式の進め方や内容、

参列者の範囲や規模感など、著名人の葬儀の動向が儀式の雛形となり、トレンドの原動力となった可能性は否定できない。

と同時に、昨今の著名人の密葬が葬儀の小規模化・個人化という時代の潮流と共鳴しているように、その在り様は社会動向を反映してもいる。だとすれば、マスメディアに見る葬儀表象の変遷は、確かに著名人という点で特殊な事例には違いないものの、それは日本社会における葬儀文化の通時的変化の一端を示しているとも解されよう。著名人の葬儀が大々的に報道されていた今から見て“少し前”の時期とは、いつ頃までの時期を指すのか。その解明は、大規模・公的葬儀から小規模・私的葬儀への転換を跡づける営為と重なり合う。

さらに結果を先取りして言えば、上述した儀礼自体が有するメディア的機能と関連して、葬儀には故人本人はもとより、故人に関わる人間関係や物事を浮上させ、これを語る契機としての役割が認められる。マスメディアが葬儀を取り上げる時、儀式の様子のみを粛々と伝えていることはまずない。生前のスキャンダルや死の原因となった事件や事故など、報道の主眼は往々にして葬儀自体とは別のところに置かれがちである。また、故人ではなく、葬儀を営む生者の側にスポットが当てられるケースも少なくない。葬儀表象によって葬儀以上の何かを表現する、すなわち、情報発信者のメッセージの表現媒体として葬儀の場が利用されているのであって、よって葬儀は二重の意味でメディア的だと言える。葬儀を通じて、マスメディアは何を表現しようとしてきたのか。この問いは、葬儀が果たす社会的な機能の二次的側面に光を当てるものとなろう。

以上のような問題意識および学術的な意義に基づき、本研究では、戦後の大衆雑誌に掲載された著名人の葬儀に関する記事を対象に、その取り上げ方や語られ方の変化を跡づけていきたい。

2．研究対象・方法

追跡が比較的容易であり、かつ大衆的な消費ニーズを顕著に反映すると考えられることから、本研究では葬儀を報じるマスメディアとして雑誌に着目する。対象とするのは大宅壮一文庫の所蔵雑誌で、「葬儀」の語で Web OYA-bunko のフリーワード検索を行い、個人の葬儀について取り上げている記事を対象として、その報じられ方の分析を行う。なお、通時的変化を追うという主眼に鑑みて、実施から時間が経過した過去の葬儀を回顧するタイプの記事や、葬儀一般を話題とするような（例えば、葬儀の動向や価格比較を概括的に論じているような）記事は除外することとした。コロナ禍の葬儀に対する影響は別途考える必要があるため、対象期間は 1945 年から日本で新型コロナウイルスの影響が出る前の 2019 年までとしたい。

3 か年の年次計画は、以下のとおりである。

【1 年次】戦後〜1970 年代までを対象に、まずは記事の実態を確認しながら、いかなる分析の観点が成り立ち得るか、通時的な変遷を捉えるにあたって、どのような観点が有効性を発揮するかについての検討を行う。

【2年次】1980年代～90年代を対象に、1年次に提起した観点で分析を行うと共に、小括として1990年代までの通時的な変化についての分析・考察を行う。また、メディアの中の葬儀／メディアとしての葬儀という問いが、いかなる学問的な問題系に接続可能であるのかの精査も同時に進める。
【3年次】2000年代以降（2019年まで）を対象に分析を行う。葬儀規模やメディア報道のあり方が変化した、現在の状況に連なる転換点の時期と考えられるため、背景となる社会と葬儀の動向も合わせて押さえたい。そのうえで、これまでの研究成果を統合して論文を作成する。

3．第1年次報告

（1）分析対象について

大宅壮一文庫の所蔵雑誌で「葬儀」のキーワードでピックアップされる記事のうち、個人の葬儀を取り上げる記事（前述の理由から比較的直近で実施された葬儀に限定、年月の経った葬儀を回顧する記事は除外）を分析の対象とした。予備調査から1980年代以降に記事件数の飛躍的な増加が見込まれたため、第1年次ではひとまず1970年代までを一区切りとして抽出を行い、結果、計96件の記事を得た。記事の詳細は別表「大宅壮一文庫「葬儀」関連記事一覧（戦後～1979年）」を参照されたい。記事の掲載年代に関しては、1950年代3件、1960年代15件、1970年代78件と1970年代が大半を占めており、掲載誌別では『週刊文春』10件が最も多く、続いて『週刊新潮』『週刊明星』9件、『女性セブン』8件、『週刊平凡』7件、『財界』6件の順となっている。これら掲載誌の多くが1950年代後半に創刊されているように（例外で『財界』は1953年、『女性セブン』は1963年創刊）、上記の記事件数の推移は葬儀の動向というよりは、1950年代に相次いだ雑誌の創刊という出版動向の反映と捉えるのが妥当であろう。

（2）有効な分析観点の設定

1年次における最も重要な課題は、記事を分析するにあたっての観点の設定である。3年次まで通底する研究の要となるため、1980年代以降に予期される変化を念頭に置きつつ、1年次ではまず記事内容の実態把握に努め、具体相に即した有効な分析観点の提示を試みた。2年次以降の調査を受けて微修正や追加が必要となる可能性はあるものの、現段階では、①葬送対象である故人と立場、②記事の焦点（人物）、③記事の焦点（内容）、④写真／被写体、⑤参列者数・葬儀規模への言及、という5つの観点を設定するに至った。以下、各観点の説明と今回の対象記事の動向を概括する。

（3）各観点と記事の動向

①葬送対象である故人と立場

第一に挙げられるのは、基本的な情報として、記事が報じる葬儀において葬送の対象とな

っている故人と、その故人がいかなる立場にあるのかという観点である。葬儀に対してマスメディアが取り上げるだけの価値、すなわち大衆的な消費ニーズの源泉となるのは、やはり故人の知名度だろう。具体的な故人名については別表を参照されたい。今回の対象の場合、故人の立場に関しては、作家 22 件、著名人の親族・関係者 19 件、実業家 16 件、政治家 15 件、芸能人 10 件、一般人 6 件、宗教家 2 件、メディア露出を伴う職業人（アナウンサー、映画監督など）2 件、架空の人物 2 件、天皇・皇族 1 件、犯罪者 1 件と予想に違わず大半を著名人が占めている。この中で、社会的な知名度を持つ著名人ではない者という意味での「一般人」に該当するのは、著名人の親族・関係者 19 件と一般人 6 件の計 25 件で、全体の約 4 分の 1 程度となっている。うち 19 件は著名人の親族・関係者であることから、純粋な意味での一般人の葬儀は殆ど取り上げられていないと言える。このように、知名度を持つのが故人自身ではなく、故人の親族や関係者であるケースが一定数存在しており、一般人の葬儀が取り上げられる場合の多くは、このケースに該当している。詳細は②③で述べるが、葬儀をトピックとしてはいるものの、記事の注目は必ずしも故人に向けられているわけではなく、式を営む生者の側に向けられていることが少なくない。葬儀を執行するもしくはそこに参列する著名人の様子を扱うのが記事の主眼であり、参列者の感情や人間関係を顕在化させる装置として葬儀が機能し得ることで、故人自身は一般人であっても、著名人の親族・関係者の葬儀には消費価値が生じていると言えよう。なお、著名人とは無関係な一般人の葬儀を報じる 6 件のうち 4 件は、社会的に注目度の高い事件の被害者の葬儀となっている。

今回の対象期間で最も多かったのは作家の葬儀であるが、これは 1970 年 11 月 25 日に起こった三島由紀夫の自決事件に起因している。23 件中 11 件を三島の葬儀に関する記事が占めていることから、この件数はややイレギュラーなものだと解すべきだろう。三島事件のような社会的に注目度の高い出来事が付随する場合には、表中の「特記」に示している。当該期間で三島以外に特徴的な葬儀としては、吉田茂の国葬が挙げられる。1926 年に制定された国葬令に基づき、戦前には天皇以外にも東郷平八郎や山本五十六の葬儀が国葬で行われている。ただし、国葬の根拠となるこの勅令は新憲法の施行に伴い失効したため、吉田の国葬は、戦後初めて行われた国葬であった。表中には 5 件の記事が確認されるが、このうち【No.12】の『週刊読売（臨時増刊号）』は吉田の国葬に特化した特集号であり、収録される記事数の多さから便宜上 1 件にまとめたものである。

故人および立場が「架空の人物」とされている【No.90,91】は、当時テレビ放送されていた刑事ドラマ『太陽にほえろ！』の登場人物であった田口良の葬儀を紹介する記事である。俳優の宮内淳が演じ、ボンボン刑事の愛称で人気を博した田中刑事は、1979 年 7 月 11 日の放送回で殉職している。主催は判然としないものの、「宮内淳（ボンボン刑事）の殉職を悲しむ会」と称して日本テレビの大会議室に祭壇が設えられ、ファンが献花を行ったようだ。会場では殉職回の上映会を行った後、宮内淳とファンとの交歓会が行われたとされている。

②記事の焦点（人物）

第二に挙げられるのは、記事の焦点が葬送の対象である死者と葬儀を営む生者、いずれの側に当てられているのかという観点である。葬儀を構成する人間に注目した場合、その中心を成すのは他でもない、葬送の対象である故人ということになるだろう。葬儀は故人のために催される儀礼であり、その主役が故人であることは間違いない。しかしながら、実際に葬儀を営む主体は、遺族を筆頭とした生者である。すなわち、葬儀は死者と生者の両者で構成される儀礼なのであって、ゆえに故人に全く触れないことはあり得ないとは言え、記事の力点が必ずしも死者の側に置かれているとは限らない。むしろ、葬儀を通じて、そこに集う生者の動向を描写しようとする向きが強いと言っても過言ではないように思われる。

判別が難しいのだが、今回は試みにひとまず記事の主眼・割かれている分量・掲載写真に見る被写体の傾向の 3 点から、死者と生者のいずれに比重が置かれているかの判断を行った。入手できた 87 件に関して言えば、故人にフォーカスする記事が 15 件であるのに対して、遺族や参列者といった生者に着目する記事が 63 件（他に両方に着目するものが 7 件、【No.12,58】2 件は複数記事の集合であるため除外）となっており、その視線は生者の側に向けられる傾向にあった。生者の種別で見ると、葬儀の実行役である遺族・関係者（葬儀委員など親族以外の実行役）が 33 件、参列者が 39 件で、参列者を焦点化する記事がやや多くなっている。生者に焦点が当たっていたとしても、故人の回想を多分に含む場合もあるため判断基準の精緻化が必要なものの、著名人の葬儀に誰が参列したのか、どんな雰囲気で何人くらいの人が来たのかなど、葬儀を取り上げる際の関心は、どうやら生者の織りなす人間模様の方に向きがちなようである。その点を明らかにするのが、次の③である。

③記事の焦点（内容）

前掲の②は、記事の焦点を葬儀の構成主体において把握するものであった。これを受けて第三に提起されるのは、記事が一体何を主眼とするものであるのかという、内容の面において記事の焦点を把握する観点である。記事の主眼は、当然のことながら、先に確認した焦点化されている主体とリンクしている。ゆえに、内容に関しても、死者／生者に重きを置く主眼という二分法で大別が可能である。

まず死者に重きを置く主眼としては、「生前の回想」が挙げられる。故人の生前の言動を振り返りながら、その人生や人となりを総括して故人像を定めていく、いわば「故人はこんな人だった」について述べた記事が、これに当たる。故人の多くは著名人であるため、公人としての生前の活動を今一度振り返ると共に、私人の局面を含む故人との個別的な思い出やエピソードを、参列者の弔辞もしくは書き手の直接的な交流体験によって提示しながら、故人の評価を確定して追悼するのがお決まりのパターンである。

ただし、こうした回想が、故人の功績を顕彰もしくは惜しむといったポジティブな評価に直結しているかと言えば、決してそうではない。社会的な影響力の大きな人物、とりわけ政治家や有力な実業家のような社会的な批評にさらされる人物の場合、生前の振る舞いが批

判的に総評されるケースもある。吉田茂の主導した高度産業社会のあり方を批判する【No.11】などはその代表例であり、「今回の葬儀は、人間の死をいたむというはなはだ原始的な素朴な側面と、高度産業社会の側面とを無理やりに結びつけようとして、ぎくしゃくとした感じを人に与えている」［107 頁］との記述には、故人の人生を総括する機会として機能すると同時に、式のあり様自体が故人の人生や人となりを表すという、死者像の形成において葬儀が果たす二重の意味での表象機能を見て取ることができる。政治家の田中彰治の葬儀を扱った【No.47】が、「空席の目立ったさびしい葬儀」の様子を田中の破天荒な政治家人生・私生活と結びつけていたように、葬儀は故人の人生や人柄の表れとしても捉えられているのであり、であるからこそ、参列者の面子や数といった葬儀の様子がマスコミの関心事になるとも言えよう。「その人らしさ」の表れという点で言えば、故人が生前にどのような葬儀を希望していたかに注目してもよいかもしれない。例えば、作家の梶山季之は「葬式も墓も必要ない。通夜だけ盛大にやって、編集者や世話になった人には礼をつくしてくれ」と生前に遺言しており、それを汲んで告別式を通夜の延長と位置づけて実施したとされている【No44】。他方で、政治家の津島寿一の場合は「葬儀はできるだけ簡略に」と遺言していたにも拘らず盛大な葬儀が営まれ、これが批判の対象となっている【No.9】。

さらに、故人の回想を主眼とする記事には、回想を通じて不在となった個人のプライベートを暴露するタイプの記事が、一定数見受けられる。先の【No.47】では、田中の政治家人生と女性遍歴が並置されていたのだが、実業家である大蔵貢【No.80】の記事でも、故人の女性関係が回想の一環で取りざたされていた。他にも、三島由紀夫の葬儀を契機に、【No.22】では生前に関わりのあったとされる人物（葬儀には関与していない人物）の言葉を掲載する形で、故人の性的な志向を話題にしている。生前にもプライベートを侵犯するゴシップ的な記事はあっただろうが、本人が不在となったことで、こうしたセンシティブな話題が真偽不明な噂と合わせて、取り上げやすくなったとも解されよう。国葬の弔辞であっても故人との個別的なエピソードに触れていたように、生前の回想には、故人の意思とは別に、回想する主体が知ってもらいたいと考える故人の一面を提示するという行為が内包されている。つまり、葬儀が促す生前の回想には、程度の差こそあれ、故人のプライベートを開示する働きが認められると言えよう。マスメディアが葬儀を取り上げる理由であると共に、プライバシー保護を重視した密葬の理由もまた、この点に求められると思われる。

また、数は多くないが、死者に焦点を当てた主眼には他にも、なぜ故人が亡くなったのかという「死に至った経緯」の説明が挙げられる。故人が事故死【No.59】や突然死【No.51,61】、もしくは自殺したケース【No.43】では死の詳細が関心事となる傾向にあり、自殺の場合にはその経緯が推察されている。

一方、生者に重きを置く主眼としては、葬儀における「遺族・関係者／参列者の様子」もしくは「葬儀の様子」の報道が挙げられる。記事件数は「遺族・関係者の様子」29 件、「葬儀の様子」20 件、「参列者の様子」19 件となっており、先の死者に重きを置いた「生前の回想」15 件、「死に至った経緯」5 件と比較すると、②で確認されたように葬儀を取り上げる

際の関心は、やはり生者の側に向く傾向にあると言えよう。人物にフォーカスする時は「遺族・関係者／参列者の様子」、式全体を描写する志向が強い時は「葬儀の様子」に振り分けたものの、後者には前者の要素が内包されるために切り分けが難しく、基準の精緻化が必要だと考えられる。

故人が著名人である場合、葬儀の参列者や実行役となる親族以外の関係者もまた、著名人であることが多い。よって、そこには参列者や関係者自身の知名度に依拠した消費価値がもとより存在している。と同時に、葬儀が故人の人となりを表象するという前述の指摘を踏まえれば、誰が参列したのか、どのくらいの人数が参加したのかは、故人の交友関係ひいては人望の表れの意味でも世間の関心事になると推察される。とりわけ政治家や実業家においては、それが業界における社会的な権威性に直結することは、政財界のビックネームがこれでもかと列挙された、彼らの葬儀記事の様相が顕著に物語っているところだ。

加えて、哀惜の感情が表出される葬儀とは、人々が普段は見せない表情を露出させる場に他ならない。すなわち、私的な人間性が垣間見える場なのであって、そこでは参列者もしくは遺族・関係者である著名人の“素顔”を覗き見できるかもしれないわけである。次の④で示されるように、葬儀がグラビア記事となっているのは、そうした状況によるのであろう。多くの記事が弔辞の内容を取り上げ、時に全文掲載までしているのは【No.12,34,58】、故人の隠された一面だけでなく、弔う側である生者の隠された内面が、故人との私的な関係性のもとに浮かび上がるからだと推察される。

こうした故人との繋がりに紐づく消費価値とは別に、「親族・関係者／参列者の様子」を焦点化する記事には、主役であるはずの死者はそっちのけで、完全に葬儀に参与する生者の側の事情に価値を見いだす記事も少なくない。遺族間での遺産相続の行方【No.40】から遺族・関係者の政治活動の動向【No.45】、社葬をめぐる企業内のお家騒動【No.65】、微妙な間柄にある参列者同士の邂逅【No.69】、果ては葬儀の場でのトラブル【No.46,64】、離婚した著名人が元親族の葬儀に参加するか否かの推測【No.96】に至るまで、葬儀を通じて生者の様々な人間模様がクローズアップされている。死者と生者はもとより、生者間の結びつきを生み出す葬儀は、人間関係を可視化する装置の役も果たす。それゆえ、葬儀の公的性格が強かった当該期の記事には、追悼を謳いながらも、その実は興味の充足を目的とした覗き見的なゴシップ記事が散見される。これらが時代の推移と共にいかに変化していったのか、以降の動向が気になるところである。

④写真／被写体

第四に挙げられるのは、葬儀の視覚的な表象のあり方に着目する観点である。雑誌記事は文字のみで構成されているわけではなく、多くの場合、写真が掲載されている。対象記事では 79 件に写真の掲載が認められ、うち 30 件は写真をメインに据えたグラビア記事の扱いとなっている。葬儀が視覚的な消費価値を有しているのは興味深い。その背景には、③で指摘したような葬儀の果たす機能があるものと推察される。

視覚表現の分析方法は今後の課題であるが、現状で把握できている被写体の特徴に関して言えば、参列者はやはり著名参列者を中心に取り上げられる向きにあり、一般参列者が被写体となる時は、引きのアングルで人数の多さを示す群衆として表象される傾向が見受けられる。また、生者以外の被写体では、遺影、棺、位牌、遺骨、そしてこれらを包括した祭壇を写しているケースが多く、その特性からして、いずれも故人の表象として機能していると捉えられる。遺族・関係者および著名・一般参列者を被写体とする写真については、人物のいかなる様子を写しているのかまで踏み込んだ、詳細な分析が必要となるだろう。分析方法を模索したい。

⑤参列者数への言及

第五に挙げられるのは、葬儀の参列者数への言及に着目した葬儀規模の把握という観点である。葬儀の大規模・公的葬儀から小規模・私的葬儀への転換を跡づけるため、本研究では各対象期間における葬儀の規模感を把握することが求められる。そこで指標にしたのが参列者数である。「多くの参列者が…」といった抽象的な表現ではなく示された実数に着目したうえで、その数が参列者の多さ／少なさのいずれを表すために用いられているのかを記録した。

掲載された人数が一般参列者を指すのか、はたまた招待した関係者を含むのか、さらには通夜・葬儀・告別式の別など今後より精緻な分析が必要となるが、最も参列者数が多かったのは創価学会会長だった戸田城聖の「約 30 万人」で【No.3】、次いで太田垣士郎「1 万 6000 人」【No.7】、鹿島守之助「約 1 万人」【No.48,50】であった。なお、「8200 人」で次点につけた三島由紀夫の葬儀記事【No.28】によれば、参列者「8200 人」は「吉田茂元首相の国葬（四万）、川島正次郎の自民党葬（二万）、河野一郎の葬儀（一万）」に次ぐ数字であり、「吉川英治（三千人）、大宅壮一（千八百人）」の参列者を優に超える数だとされている。掲載された実数は、参列者の多さを示していることが多い。唯一、参列者が少ないことを示すために用いられているのが【No.47】で、「350 ほどの参列者席にやたら空席が目立つ」「さびしい葬儀」であることが、④で述べたとおり、故人の人生の総評と結びつけられている。

【表】大宅壮一文庫「葬儀」関連記事一覧（戦後～1979年）

No.	記事名	雑誌名	発行年	月	日	①-1 故人	①-2 立場	①-3 特記	②焦点・人物	③焦点・内容	④-1 写真（枚）	④-2 被写体	⑤参列者数への言及
1	香煙のゆらめく蔭に　世界最初の水爆犠牲者、久保山さんの葬儀をめぐって	地上	1955	1	ー	（一般人）	一般人（被害者）	事件	故人	アメリカへの抗議	1		
2	小林一三翁の葬儀	毎日グラフ	1957	2	17	小林一三	実業家						
3	ある教祖の葬列　創価学会会長の葬儀	週刊サンケイ	1958	5	11	戸田城聖	宗教家		参列者	参列者の様子	5 グラビア	一般参列者	約30万多
4	野郎　泣くな！　赤木圭一郎、死す	毎日グラフ	1961	3	12	赤木圭一郎	芸能人						
5	合掌　宇野浩二氏逝く	毎日グラフ	1961	10	15	宇野浩二	作家						
6	吉川さんの葬儀場にて	週刊文春	1962	9	24	吉川英治	作家						
7	財界レポート：葬儀にみる関西財界巨頭の死	財界	1964	4	15	太田垣士郎	実業家		故人	生前の回想	4	故人、著名参列者	1万6000人多
8	第四社会面：故人の行動半径の広さ語る　堤康次郎氏のマンモス葬儀	サンデー毎日	1964	5	17	堤康次郎	実業家						
9	裏切られた津島さんの葬儀　遺言に背いて盛大を極めるまで	週刊新潮	1967	2	25	津島寿一	政治家		参列者	葬儀に対する批判	2	故人、祭壇、著名参列者	1500人多
10	特別記事　“国葬”がつくられた10日間※「故吉田茂国葬儀」、マスコミの狂態	マスコミ市民	1967	11	ー	吉田茂	政治家	国葬					
11	今週の社会観察：自動車の排気ガスのなかで　吉田茂氏の国葬	朝日ジャーナル	1967	11	12	吉田茂	政治家	国葬	故人	生前の回想（批判）	1	祭壇、著名参列者、遺骨	
12	緊急特集：国葬　吉田茂　その多彩な生涯	週刊読売臨増	1967	11	15	吉田茂	政治家	国葬	※	※	※	※	※
13	ニュースの経済学：国葬っていくら費ったの！？	女性セブン	1967	11	15	吉田茂	政治家	国葬	遺族・関係者	葬儀の費用	2	祭壇、著名参列者	
14	菊とバラの国葬	毎日グラフ	1967	11	19	吉田茂	政治家	国葬	故人 参列者	生前の回想 参列者の様子	23 グラビア	※多数	※
15	天理教王国のこれから先　この盛大な葬儀　真柱・中山正善を突然に失って…	週刊文春	1967	12	4	中山正善	宗教家		遺族・関係者	遺族・関係者の様子	4	祭壇、故人、遺族	
16	ボビーもまた	週刊読売	1968	6	21	ロバート・F・ケネディ	政治家	事件	参列者	参列者の様子	5 グラビア	遺族・関係者、祭壇、一般参列者、著名参列者	
17	R・ケネディの葬儀に参列して	民族と政治	1968	8	ー	ロバート・F・ケネディ	政治家	事件	参列者	葬儀の様子	3	著者、故人、一般参列者	
18	ニューズ・オブ・ニューズ：臣茂の“忠臣”死す	週刊読売	1969	3	28	安斎正助	政治家側近		故人	生前の回想	1	著名参列者	
19	〈ある20才〉広島・シージャック事件　犯人・川藤展久、閉ざされた心の裏側…	女性セブン	1970	6	3	（一般人）	一般人（加害者）	事件					
20	特集：ＢＢＣが宇宙中継を申し込んだ三島葬儀	週刊新潮	1971	1	23	三島由紀夫	作家	事件	遺族・関係者	遺族・関係者の様子（葬儀前）	3	葬儀会場候補、故人、故人宅	
21	三島由紀夫の葬儀24日の一部始終焼香者が何人になるか予測もできない築地本願寺のその日の大絵巻	週刊現代	1971	1	28	三島由紀夫	作家	事件	遺族・関係者	遺族・関係者の様子（葬儀前）	3	故人、葬儀会場、遺族・関係者	
22	特報！空前の「三島葬儀」と知られざる人間模様　「三島さんは“男”でした」…37歳のオトコが異常告白	アサヒ芸能	1971	2	4	三島由紀夫	作家	事件	故人	生前の回想（暴露）	5	祭壇、遺族・関係者、知人、一般参列者	一般約8000人・多
23	三島由紀夫葬儀にみせた瑤子夫人のある決意	週刊平凡	1971	2	4	三島由紀夫	作家	事件	遺族・関係者	遺族・関係者の様子	6	遺族・関係者、墓、葬儀会場、故人、故人宅	
24	三島の葬儀につめかけた8000人の有縁無縁	週刊朝日	1971	2	5	三島由紀夫	作家	事件	参列者	参列者の様子	2	著名参列者、一般参列者	関係者約100人、一般8200人・多
25	ニューズ・オブ・ニューズ：三島由紀夫の葬儀の側面	週刊読売	1971	2	5	三島由紀夫	作家	事件	参列者	参列者の様子	1	遺影、一般参列者	一般8000人・多

No.	記事名	雑誌名	発行年	月	日	①-1 故人	①-2 立場	①-3 特記	②焦点・人物	③焦点・内容	④-1 写真（枚）	④-2 被写体	⑤参列者数への言及
26	三島葬儀を報道しなかったNHKの「見識」に料金不払いの声	週刊新潮	1971	2	6	三島由紀夫	作家	事件	遺族・関係者 マスコミ	マスコミの対応 遺族・関係者の様子	1	遺族・関係者	
27	葬儀であかす　三島由紀夫豊饒の死	週刊文春	1971	2	8	三島由紀夫	作家	事件	参列者	参列者の様子	4 グラビア	一般参列者、著名参列者、関係者	
28	特報　三島《封じ込め葬儀》を成功させたのは誰か？	平凡パンチ	1971	2	8	三島由紀夫	作家	事件	参列者	葬儀に対する批判	10	著名参列者、一般参列者	8200人・多
29	ベールの下の哀別の涙　1月24日、三島由紀夫葬儀の日の瑤子未亡人	女性セブン	1971	2	10	三島由紀夫	作家	事件	遺族・関係者	遺族・関係者の様子	4 グラビア	遺族・関係者、祭壇、遺骨	8000人・多
30	1月24日、三島由紀夫葬儀　瑤子未亡人が遺影の前でかみしめた61日間の涙	女性セブン	1971	2	10	三島由紀夫	作家	事件	遺族・関係者 参列者	遺族・関係者と参列者の様子	5	遺族・関係者、著名参列者、一般参列者、祭壇	およそ8000人・多
31	高橋和巳氏の葬儀	週刊朝日	1971	5	21	高橋和巳	作家		故人	生前の回想			
32	葬儀に参列して	新潮	1971	7	ー	高橋和巳	作家		故人	文学者とは何か			
33	成田で殺された福島警部補の葬儀“あなた！夢なのよね”…	女性セブン	1971	10	6	（警官3名）	一般人（被害者）	事件	遺族・関係者	遺族・関係者の様子	5	事件現場、故人、遺族・関係者、遺影、位牌	
34	志賀先生葬儀記録	図書	1971	12	ー	志賀直哉	作家		参列者	葬儀の様子	1	祭壇	一般約1200人・？
35	殉職警官葬儀の二人の弔問客（あさま山荘）	流動	1972	5	ー	（警官2名）	一般人（被害者）	事件	参列者	参列者に対する批判			約8000人・多
36	突然の自殺から葬儀まで	アサヒグラフ	1972	5	5	川端康成	作家	事件					
37	ワイド特集'73年歳末人物大売出し 愛知前蔵相葬儀に固唾を呑む人々	週刊文春	1973	12	17	愛知揆一	政治家		遺族・関係者	遺族・関係者の様子（葬儀前）	2	故人、遺族	
38	春のスクープワイド特集　改めて問う、幼子二人を巻き込んだ“惨劇”を誰が招いた！	ヤングレディ	1974	3	25	（一般人）	一般人（被害者）	事件	遺族・関係者 参列者	遺族・関係者と参列者の様子（被害者遺族と加害者関係者）			約150人・？
39	首相訪韓の“隠された”部分　大統領夫人の葬儀に参列した田中首相	週刊文春	1974	9	9	陸英修	政治家親族		参列者	参列者の様子（推測）	1	祭壇	
40	巨万の富をめぐる喪服！オナシスの葬儀がスコルピオ島で！	週刊明星	1975	4	6	アリストテレス・ソクラテス・オナシス	実業家		遺族・関係者	遺族・関係者の様子	9 グラビア	故人、遺族・関係者、著名参列者、棺	
41	ルポルタージュ・その日の台湾　「蒋介石葬儀に日本皇室は哀悼の意を表した」か	週刊文春	1975	4	30	蒋介石	政治家		世人	日本政府・天皇の対応に対する世人の反応	4	一般参列者、遺族・関係者、街頭の様子	
42	プライバシー・サイド：某月某日　蒋介石総統の葬儀に参列して	財界	1975	5	15	蒋介石	政治家		故人	日本政府に対する批判	2	故人、祭壇	関係約2500人・多
43	葬儀がまるで二人の結婚式のように…人気声優・富永美沙子とディレクター母袋博さん心中事件の結末	週刊女性	1975	5	27	（一般人）	芸能人関係者	自殺	故人	生前の回想 死に至った経緯（推測）	2	故人関係者、祭壇	
44	温かい先輩・友人に送られて　多くの著名人が参列の故梶山季之氏の葬儀	週刊平凡	1975	6	5	梶山季之	作家		参列者	遺族・関係者の様子 参列者の様子	10 グラビア	遺族・関係者、著名参列者、祭壇	
45	ルック：葬儀委員長で角さんカムバック	週刊現代	1975	6	19	佐藤栄作	政治家		遺族・関係者	遺族・関係者の様子	1	遺族・関係者	
46	梶山氏の葬儀で柴田錬三郎氏に噛みつかれた田辺茂一氏	週刊サンケイ	1975	7	17	梶山季之	作家		遺族・関係者 参列者	遺族・関係者と参列者との揉め事	3	祭壇、遺族・関係者、著名参列者	

No.	記事名	雑誌名	発行年	月	日	①-1 故人	①-2 立場	①-3 特記	②焦点・人物	③焦点・内容	④-1 写真（枚）	④-2 被写体	⑤参列者数への言及
47	黒い霧事件主役の死　爆弾男田中彰治の葬儀に参列した著名人の勇気	アサヒ芸能	1975	12	18	田中彰治	政治家		故人	生前の回想（批判・暴露）	6	故人、著名参列者、祭壇、花輪	350ほどの参列者席にやたら空席が目立つ・少
48	ルック：故鹿島守之助氏の大葬儀参列者は１万人	週刊現代	1975	12	25	鹿島守之助	実業家		参列者	葬儀の様子	1	祭壇、著名参列者	約1万人・多
49	墓碑銘：『火宅の人』の作家・檀一雄氏の通夜と葬儀	週刊新潮	1976	1	22	檀一雄	作家		参列者	参列者の様子	1	祭壇	約600人・多
50	プライバシー・サイド：某月某日　岳父鹿島守之助の葬儀	財界	1976	2	1	鹿島守之助	実業家		故人 参列者	生前の回想 葬儀の様子	1	祭壇、遺族・関係者	約1万人・多
51	祝いの夜に悲報のベルが…　母親スギさんの死にぼう然とする田辺靖雄・九重佑三子夫妻	週刊平凡	1976	2	5	（一般人）	芸能人親族		遺族・関係者	遺族・関係者の様子 死に至った経緯	7 グラビア	故人、祭壇、遺族・関係者、著名参列者	
52	パジャマ党の父でした　1月29日、父・清穂さんの葬儀が	週刊女性	1976	2	17	（一般人）	アナウンサー親族		遺族・関係者	遺族・関係者の様子	1 グラビア	遺族・関係者	
53	遺影にそそぐ親の涙！前野の葬儀しめやかに…	週刊明星	1976	4	11	前野霜一郎	芸能人	事件	遺族・関係者	遺族・関係者の様子	5 グラビア	遺族・関係者、遺影、位牌、事件関連	
54	「創価学会・池田会長の母」の葬儀が集めた政・財・官の"顔"と花輪	週刊文春	1976	9	23	（一般人）	宗教家親族		参列者	遺族・関係者の様子	7	故人、遺族、葬儀場、著名参列者	6000人・多
55	密着ルポ　大葬儀で偲ぶ創価学会池田大作会長のお母さん	週刊サンケイ	1976	9	30	（一般人）	宗教家親族		参列者	葬儀の様子	5	故人、遺族、著名参列者、一般参列者	約6000人うち来賓930人・多
56	棺を蓋いて知る創業者の実力　「故・石橋正二郎氏」空前の大葬儀の評判	週刊現代	1976	10	7	石橋正二郎	実業家		故人 参列者	葬儀の様子（葬儀前） 生前の回想（顕彰）	1	故人	
57	ゴッドファーザーの死　マフィアの大ボス、カルロ・ガンビーノの葬儀	アサヒ芸能	1976	11	11	カルロ・ガンビーノ	著名犯罪者		故人 参列者	生前の回想 葬儀の様子	4 グラビア	遺族・関係者、一般参列者、故人、棺	
58	昭和51年10月10日故武田泰淳葬儀における誄詞・弔辞	海	1976	12	ー	武田泰淳	作家		※	※			
59	D・マーチンら名士７百人が参列　シナトラが事故死した母の葬儀で号泣！	週刊明星	1977	1	30	（一般人）	芸能人親族	事故	遺族・関係者	死に至った経緯 遺族・関係者の様子	1	遺族	700人以上・多
60	「社長葬儀」の日の墓地周辺	週刊新潮	1977	2	17	田坂輝敬	実業家		参列者	参列者の様子	1 グラビア	葬儀会場、墓地	
61	美智子妃殿下の伯父「正田建次郎氏」の葬儀に関して「天皇家」の配慮と行動	週刊新潮	1977	3	31	（一般人）	皇族親族		故人 参列者	死に至った経緯 遺族・関係者の様子	3	祭壇、著名参列者、遺族・関係者、故人	
62	最愛の父の葬儀でみせたアグネスの深い悲しみ	週刊平凡	1977	4	14	（一般人）	芸能人親族		遺族・関係者	遺族・関係者の様子	4 グラビア	故人、遺族、遺体、棺	
63	SNAP（明治以来、三代の天皇にお仕えした甘露寺受長さん（九六）の葬儀）	週刊新潮	1977	7	7	（一般人）	天皇側近		参列者	葬儀の様子			1400人・？
64	義父の葬儀の席で突然！　松方弘樹が妻に離婚宣言	微笑	1977	7	16	（一般人）	芸能人親族		遺族・関係者	遺族・関係者の様子	4 グラビア	遺族	
65	広岡社長が葬儀委員長にならない？朝日新聞の社葬　村山長挙社主の死で"お家騒動"はますます泥沼	週刊文春	1977	8	18	村山長挙	実業家		遺族・関係者	遺族・関係者の様子	4	故人、遺族・関係者	
66	嵯峨野日記（72）：無一物	週刊朝日	1977	11	11	今東光	作家		故人	生前の回想 葬儀の様子			
67	花嫁衣装を喪服に着がえて、自分たちの結婚式の席上急死した豊田四郎監督の葬儀に参列の祥子夫人	微笑	1977	12	17	豊田四郎	映画監督				グラビア		
68	今週のニュース・レーダー（花柳喜章の葬儀）	週刊明星	1978	1	22	花柳喜章	芸能人		遺族・関係者	葬儀の様子	2 グラビア	遺影、位牌、遺族・関係者、棺	

No.	記事名	雑誌名	発行年	月	日	①-1 故人	①-2 立場	①-3 特記	②焦点・人物	③焦点・内容	④-1 写真（枚）	④-2 被写体	⑤参列者数への言及
69	歴代米大統領のバツの悪い顔合せ	週刊文春	1978	2	9	ヒューバート・H・ハンフリー	政治家		参列者	参列者の様子	1	著名参列者	
70	千代田区千代田１番地　神武葬儀　東久邇聡子さん死ス	サンデー毎日	1978	4	2	東久邇聡子	皇族		参列者	葬儀の様子	1	祭壇	600人・？
71	SNAP（全日本冠婚葬祭互助会・会長母の葬儀）	週刊新潮	1978	4	20	（一般人）	実業家親族		遺族・関係者	葬儀の様子	1	祭壇	
72	墓碑銘“踏み絵”といわれた元総理母親の葬儀	週刊新潮	1978	5	4	（一般人）	政治家親族		故人 参列者	葬儀の様子	1	故人	約3000人・多
73	裏口から出てきたその日の小佐野賢治義母の葬儀	週刊サンケイ	1978	5	25	（一般人）	実業家親族		遺族・関係者 参列者	葬儀の様子	2	遺族、一般参列者	約600人・多
74	5月29日、母の葬儀の日　沢田研二・涙をこらえくずおれる夫人を抱きかかえて！	女性セブン	1978	6	15	（一般人）	芸能人親族		遺族・関係者	遺族・関係者の様子	7	遺族、遺影、樒、一般参列者	
75	沢田家の嫁	女性自身	1978	6	22	（一般人）	芸能人親族		遺族・関係者	遺族・関係者の様子	4 グラビア	遺族、骨壺	
76	今週のニュース・レーダー（今福祝の葬儀）	週刊明星	1978	6	25	今福祝	アナウンサー		遺族・関係者	葬儀の様子	1 グラビア	遺族・関係者、遺影、位牌	
77	今週のニュース・レーダー（尾上多賀之丞の葬儀）	週刊明星	1978	7	16	尾上多賀之丞3代	芸能人		参列者	葬儀の様子	2 グラビア	故人、著名参列者	
78	妻と子の涙顔だけが残った　水原弘の葬儀が自宅でしめやかに	週刊明星	1978	7	23	水原弘	芸能人		遺族・関係者	遺族・関係者の様子	5 グラビア	遺族・関係者、遺影、位牌、棺、祭壇、遺品	
79	パパ、僕は大丈夫だよ　水原弘葬儀の日のけなげな厚自くんと焼香客	週刊明星	1978	7	30	水原弘	芸能人		遺族・関係者	遺族・関係者の様子	9 グラビア	遺影、遺族・関係者、著名参列者	
80	NEWS OF NEWS：“カツドウ屋一代”大蔵貢さんの葬儀	週刊読売	1978	10	15	大蔵貢	実業家		故人	生前の回想	1	故人	
81	慟哭の別れに2000人の参列者　1月12日、しめやかに田宮二郎の本葬儀	週刊平凡	1979	1	25	田宮二郎	芸能人	自殺	参列者	参列者の様子	12 グラビア	遺族・関係者、祭壇、著名参列者	
82	権力闘争の一時休戦　日商岩井・島田常務の葬儀	週刊サンケイ	1979	3	1	島田三敬	実業家		参列者	参列者の様子	4 グラビア	著名参列者、祭壇、	
83	This Week：成田前委員長の”葬儀”で中野好夫氏の大苦言	週刊文春	1979	3	29	成田知巳	政治家		参列者	参列者の様子	1	著名参列者	
84	発電所の補償金で生きながら葬式を出した71歳翁のお彼岸　愛知県渥美郡・川口藤男さん	週刊朝日	1979	4	6	（一般人）	一般人		故人 （生前葬）	葬儀の経緯と様子（生前葬）	2	故人、僧侶の読経	
85	LOOK　人と事件：生涯独身だった藤本真澄氏の葬儀は列席者が注目の的	週刊現代	1979	5	17	藤本真澄	実業家		故人	生前の回想（葬儀前）			
86	今週の情報：葬儀　盛大だった藤本真澄前東宝副社長の葬儀、２千人が参列	財界	1979	6	5	藤本真澄	実業家		参列者	葬儀の様子	1	祭壇、遺族・関係者	約2000人・多
87	悲しみのシースルー・藤本真澄氏の葬儀の日に	女性自身	1979	6	7	藤本真澄	実業家		参列者	参列者の様子	1 グラビア	著名参列者	
88	ニュース・レーダー（堀雄二の葬儀）	週刊明星	1979	7	8	堀雄二	芸能人		遺族・関係者	葬儀の様子	1 グラビア	遺族・関係者、遺影、位牌	
89	今週の情報：葬儀　青山斎場最高の弔問客を集めた東京放送・今道潤三氏の葬儀	財界	1979	7	17	今道潤三	実業家		故人 関係者	葬儀の様子 死に至った経緯	1	故人	
90	ファン号泣　ボンボン刑事・宮内淳の”葬儀”	週刊平凡	1979	7	26	（架空の人物）	架空の人物		参列者	葬儀の様子	3 グラビア	祭壇、故人（役者）、一般参列者	
91	しめやかにボンボン刑事の“大葬儀”	週刊女性	1979	7	31	（架空の人物）	架空の人物		参列者	葬儀の様子	1 グラビア	祭壇、故人（役者）	200人・？
92	菊薫る　逝く圓生のさわやかさ	週刊平凡	1979	9	27	三遊亭圓生6代	芸能人		遺族・関係者	葬儀の様子	7 グラビア	祭壇、遺族・関係者、著名参列者	

No.	記事名	雑誌名	発行年	月	日	①-1 故人	①-2 立場	①-3 特記	②焦点・人物	③焦点・内容	④-1 写真（枚）	④-2 被写体	⑤参列者数への言及
93	今週の情報：葬儀　ニッカの創業者、ヒゲの竹鶴政孝の葬儀に弔問客二千五百人	財界	1979	10	2	竹鶴政孝	実業家		故人	生前の回想	1	故人	2500人・多
94	あまりにも突然の悲しみ　伊東ゆかり、交通事故で急死した弟の葬儀で慟哭	女性セブン	1979	10	25	（一般人）	芸能人親族		遺族・関係者	遺族・関係者の様子	3 グラビア	遺族・関係者、遺影	
95	母を送る　水谷八重子葬儀の日、娘・水谷良重は涙を秘めて…	女性セブン	1979	10	25	水谷八重子	芸能人		遺族・関係者	遺族・関係者の様子	1 グラビア	遺族・関係者、遺影、位牌	
96	都倉俊一の母が突然、死去　葬儀に欠席した大信田礼子への声	女性自身	1979	12	13	（一般人）	作曲家親族		参列者	遺族と離婚した人物の動向	4	親族・関係者、元親族、著名参列者	

1）※は複数記事の集合のため割愛

2）網掛けは未入手記事